



KICK OFF 通信

総選挙結果と今後の行方

◆今選挙の出馬見送り

第48回衆議院選挙は、与党獲得議席が3分の2を超える圧勝にて幕を閉じました。9月末になっての突然の解散劇。安倍首相による安倍首相のための選挙と位置付けて、私自身果敢にチャレンジする気でおりました。しかし、野党再編、民進党のドタバタ劇に巻き込まれ、希望の党に合流することも叶わず…。

私としては断腸の思いでありましたが、私の出馬により野党が乱立し、それが却って自民党を利することになりますので、今回は「出馬せず」という選択肢を選びました。しかし残念ながら、希望の党の失速により、やはり知名度のある自民党候補が、始終優位に戦いを進めたのでした。

◆立憲民主党の躍進

ご案内の通り、立憲民主党は希望の党から排除された民進党議員ばかりで、急ごしらえで作った政党です。当初は希望の党にスポットが当たっていたものの、野

党第一党のお株を奪うとは、党の枝野代表も想像していなかったでしょう。

しかしリベラルという旗を鮮明に掲げたことで、政権与党との違いが浮き彫りになり、国民目線からして分かり易い構図になりました。安保法制に関しても、違憲と言い放って廃止を求めたことも一定以上の支持を得ました。その上、当該選挙区における共産党候補の取り下げも功を奏しましたね。

◆今後の野党再編の流れ

希望が失望そして絶望に…、今後そんな形で揶揄されることになりましょか…。颯爽と登場した小池代表は、知事も兼務している関係上、長く代表の地位に留まるのは難しいかと思われます。また希望の党と一線を画してきた「無所属議員」の存在は、この党に決してプラスに働かないでしょう。

ましてや民進党は未だに参議院議員と地方組織を抱えております。前原代表の結果責任は当然として、野党の存在そのものの意義に

ついて自問自答が続くことになりま。おそらく近い内に、野党再々編の第2ステージに進むと思われるま。

◆当分続く臥薪嘗胆

あれだけ安倍政権が都合の悪いことは、蓋を閉じろという形で、ないがしろにする姿を国民は見てきました。森友や加計学園問題は、政治権力を歪んだ形で使った典型と言えます。しかし今の段階で、その流れを食い止める術がないのも事実です。

今後、憲法論議も加速化します。さらに北朝鮮はじめ、近隣諸国との間合いの取り方を明確にしていかなばなりません。やはり健全なる野党の存在、それも政権交代可能な勢力にまで成長するには、まだまだ時間が必要です。

私自身、ひた向きに地域を回りながら、生活者の視点からの政策立案が出来るよう、最大限努力をしてみたい。何卒、旧に倍しましてのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

【プロフィール】

- 昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…
- 平成 4年 「税は政治なり、税は国家なり」との思いで始めた税理士試験に合格
- 平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
- 平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任
- 平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長
総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事
- 平成29年 厚生労働委員会ならびに国土交通委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長
第48回 衆議院選挙出馬を見送る



前衆議院議員/神奈川県5区(戸塚・泉・瀬谷区)